

ブラジルは戻ってきた 返り咲いたルーラ大統領の外交



写真 2023年8月24日 南アフリカで開催されたBRICS首脳会議。前列左4人目からブラジルのルーラ大統領、中国の習近平国家主席、南アフリカのラマポーザ大統領、インドのモディ首相、ロシアのラブロフ外相。イランやサウジアラビアの高官、インドネシアのジョコ大統領（前列右端）、BRICS銀行総裁のルセフ元ブラジル大統領（前列右から2番目）なども参加し開催された（ブラジル大統領府 <https://www.flickr.com/photos/palaciodoplanalto/53138422306/in/album-72177720310697720/>）

JETROアジア経済研究所 近田亮平

グローバルサウス

世界政治・経済の構造におけるラテンアメリカ

・「グローバルサウス」とは(川村 2023)

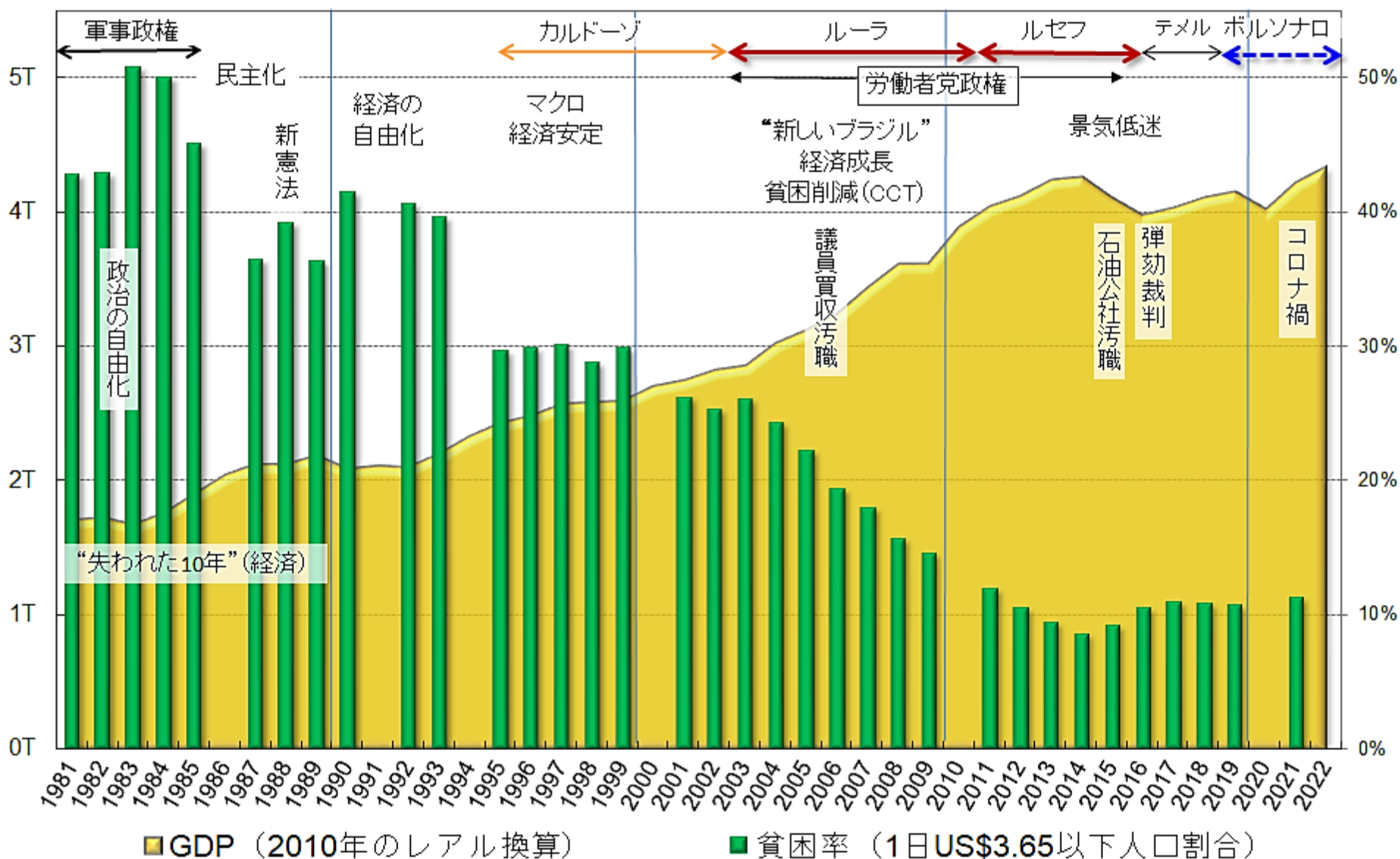
「サウス」は単に、これらの国々が主に南半球に位置しているという地理的な位置を表しているだけではない。これらの国々でみられる経済発展の遅れや政治・社会的不安定が、先進諸国である「北」によって作り上げられた世界政治・経済の構造に起因するという認識から、「北」に対する「南」という呼び方がなされているのである。

・従属論 (1960年代中頃~、Cardoso & Faletto 1979)

- ✓ 世界資本主義経済システムにおける「中心(中枢)」と「周辺(衛星)」
- ✓ 一次産品生産が主な「周辺」の「中心」に対する従属的關係＝低開発
 - ・ 「周辺」のラテンアメリカの発展：“低開発か革命か”(Frank 1967)
- ✓ 初めて「南」から発せられた開発理論
 - ・ 輸入代替工業化(1960~80年代) “ブラジルの奇跡”(1970年前後)
- ✓ 「周辺」から「中心」に移動した国：日本、中国(発展コースに復帰)

カルドージとルーラの外交

- **従属論提唱者で大統領になったカルドージ (1995~2002年)**
 - ✓ 「周辺」の「中心」への移動は可能だと唱える
 - ✓ 先進国優先の外交: サンパウロ大学教授等のインテリ左派
 - ✓ 外務省主流の全方位・多国間主義
- **左派労働者党のルーラ大統領の独自外交**
 - ✓ 新興・途上国優先の外交: 貧困層出身で叩き上げの左派
 - ✓ 左派政権の近隣諸国との地域統合を推進: 類似なイデオロギー
 - UNASUR (南米諸国連合: 2007年): 中東やアフリカ諸国との首脳会議
 - CELAC (ラ米カリブ諸国共同体: 2011年): 米国とカナダを除く米州
 - ✓ 2003~10年 **“新しいブラジル”** (Roett 2010; Fishlow 2011)
 - 連続的發展: 政治 (80's) + 経済 (90's) + 社会 (2000's) ⇒ 外交
 - ✓ **3度目の大統領: 2023年~ (2018年~収監)**



(注) 左軸がGDP額(単位は2010年換算したブラジルの通貨レアル、「T」は1兆)、右軸が貧困率(2017年の国際価格USドル3.65以下で1日生活している人口の割合)。

(出所) GDP額はIPEA(応用経済研究所)のIpeadata、貧困率は世界銀行のWorld Development Indicatorsのデータをもとに講演者作成。

返り咲いたルーラ大統領の外交

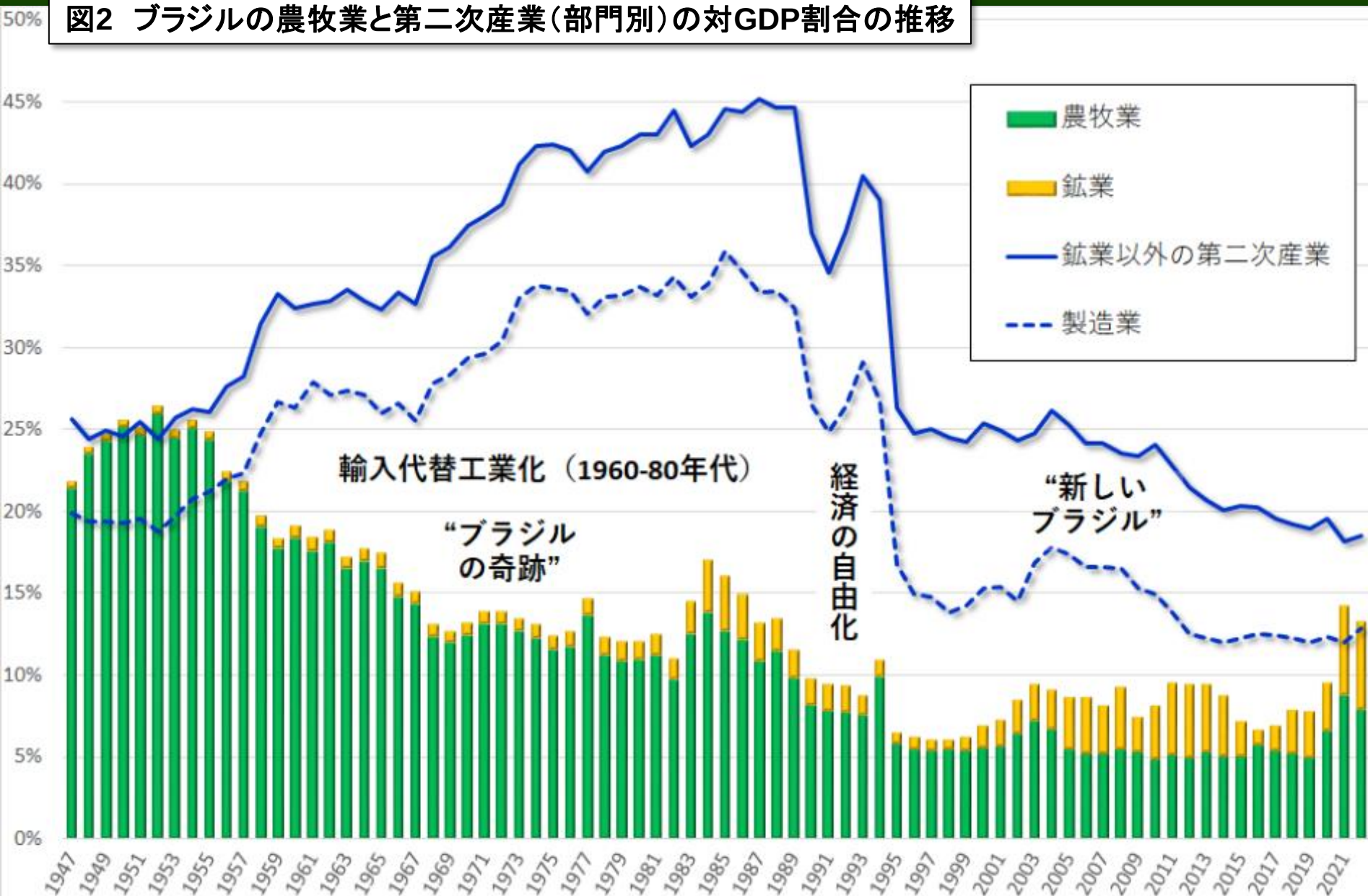
・第3次ルーラ政権の外交

- ✓ 「民主主義擁護」を掲げ2022年選挙で勝利したはずが・・・
- ✓ 紛争：ウクライナ・ロシア、イスラエル・ハマス、ベネズエラ・ガイアナ
- ✓ BRICS拡大、米中との関係、ラ米・南米地域統合 (Weeks 2023)
- ✓ G20開催・議長国 (2024年)、環境問題 (COP30 2025年)

・返り咲いたルーラ大統領のブラジル

- ✓ 「ブラジルは戻ってきた」：政権発足100日記念のイベント・タイトル
 - ・ 外交を含むさまざまな分野で使い、20回以上も繰り返しながら演説
 - ・ 最初の言及：「ブラジルは政府を有するように戻ってきた」
- ✓ 国内の分極化：「2つのブラジルは存在しない」と述べたが・・・
- ✓ 「中心」からの従属に苦悩する「周辺」 (Carrança 2023)

図2 ブラジルの農牧業と第二次産業(部門別)の対GDP割合の推移



ブラジルは戻ってきた？

Brasil voltou / Brazil has returned ?

- “新しいブラジル” (2013年度 国際シンポジウム)
 - ✓ 連続的发展や制度整備⇒外交プレゼンス増大
 - ✓ ルーラ大統領の高い評価: 退任時(2010年)80%強
 - ✓ ラ米・南米地域や新興諸国(BRICS)の同盟化
- “グローバルサウス” ブラジル (2023年度)
 - ✓ 「同盟」ではない“グローバルサウス”
 - ✓ 分極化する国内の勢力や利益を調整し反映できるか
 - ✓ 地域大国の役割: 輸出インフラ整備やピンクタイド変化
 - ✓ 軍事的脅威のない国による紛争調停

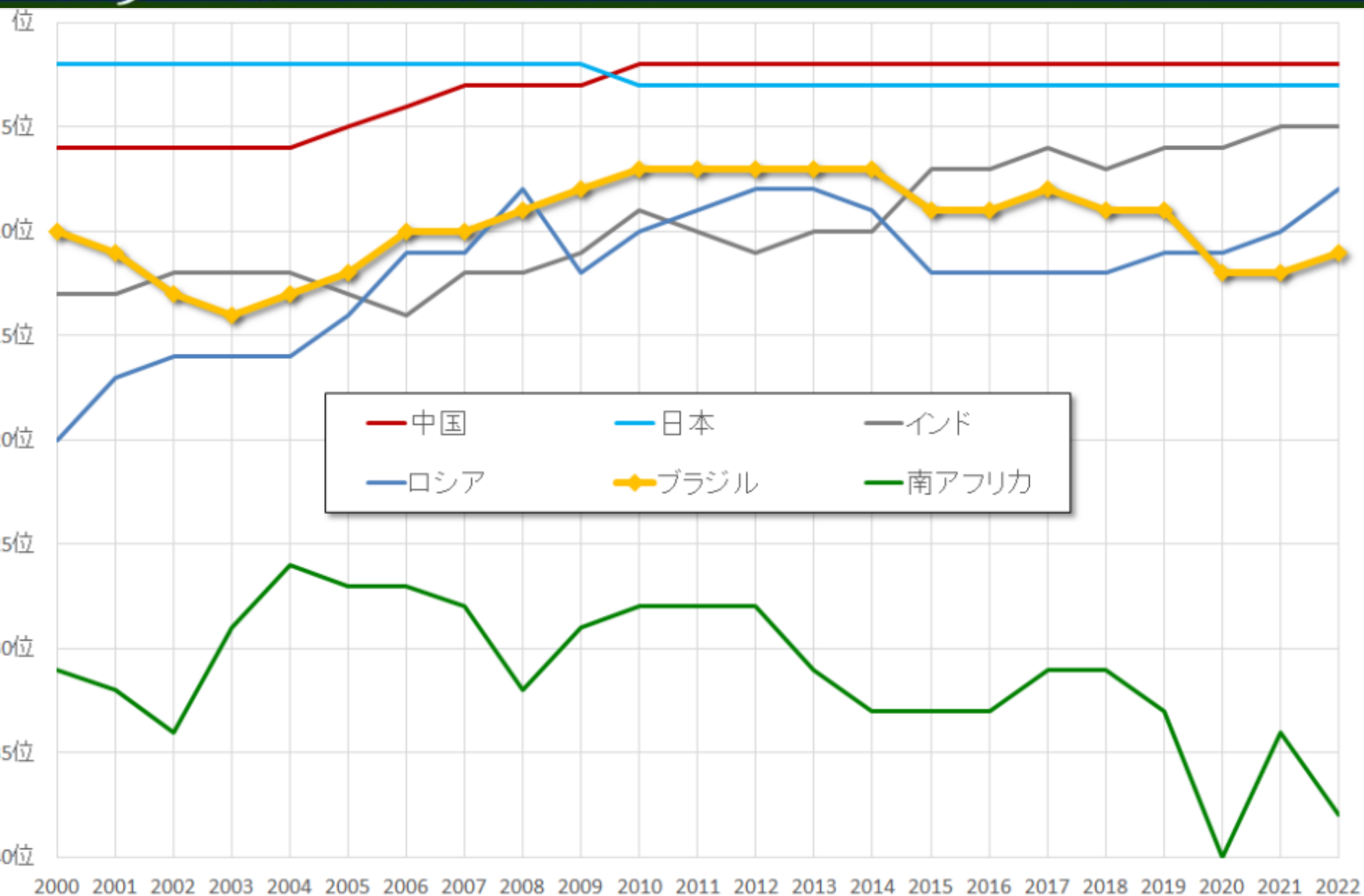


図4 ブラジルにおいて「国家が何によって統治されているか」への回答の推移

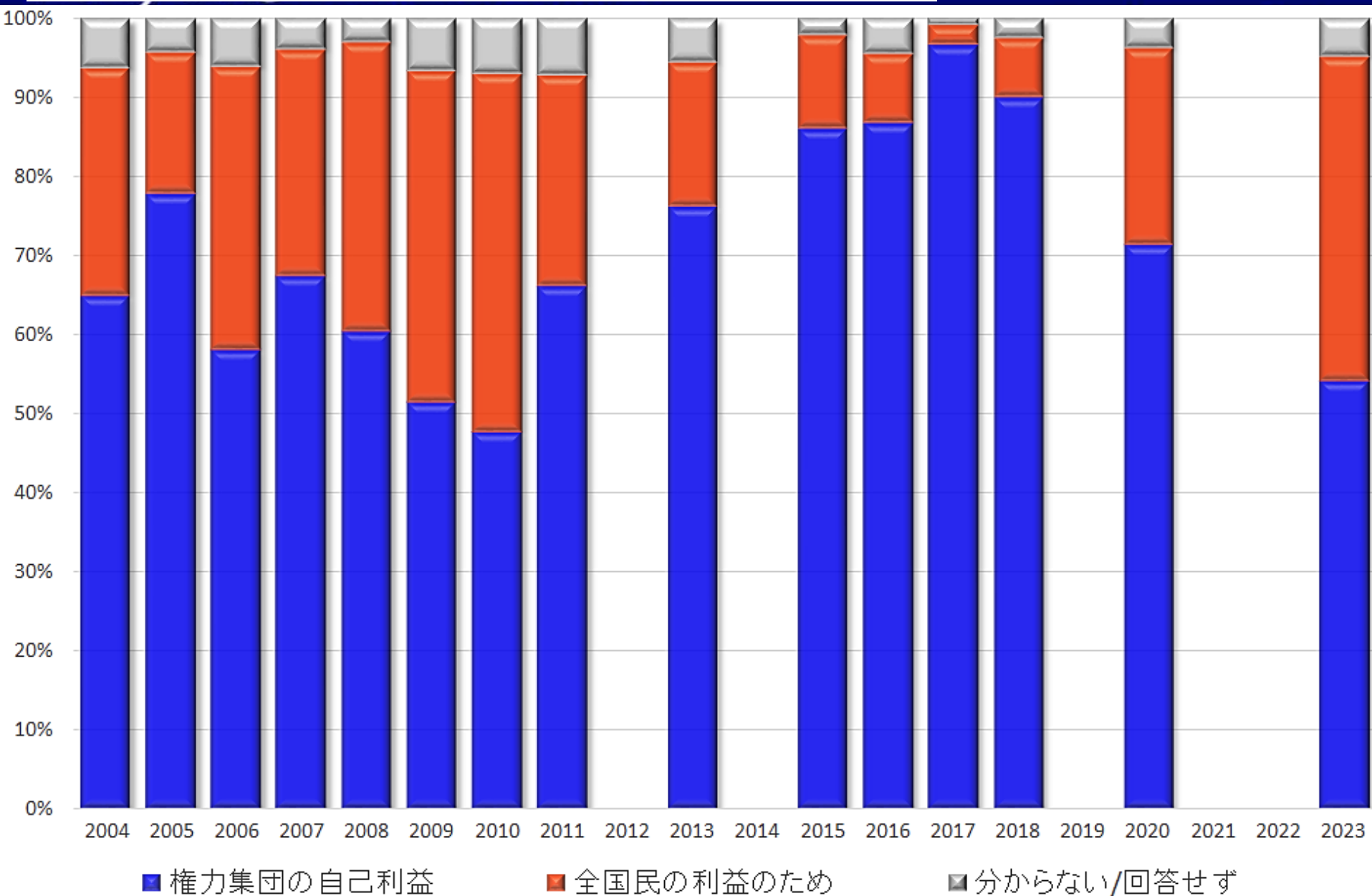




写真 2023年4月14日 中国を訪問し習近平国家主席との公式歓迎会に臨むルーラ大統領と使節団。土地なし農民運動(MST)のリーダー(最後列中央)を帯同したことを、アグリビジネス部門などが批判 (ブラジル大統領府 <https://www.flickr.com/photos/palaciadoplanalto/52819161224/in/photostream/>)

写真 2023年5月30日 ブラジリアで開催された南米諸国連合首脳会議。ベネズエラのマドゥロ大統領(左端)の参加や同政権擁護のようなルーラ大統領の発言に賛否 (ブラジル大統領府 <https://www.flickr.com/photos/palaciadoplanalto/52938796503/>)



ご清聴 Muito Obrigado

Ryohei Konta

ryohei_konta@ide.go.jp



写真 講演者撮影 ルーラが汚職疑惑で収監されていた2019年8月にサンパウロで行われた抗議デモ。
「ルーラを自由に」(Lula Livre)と書かれている。

参考文献

- 川村晃一 2023.「影響力ますグローバルサウス—分断進むほど「漁夫の利」」時事ドットコム、2月23日。
- カルドーゾ, フェルナンド・エンリケ、エンソ・ファレット 2012.『ラテンアメリカにおける従属と発展—グローバル化の歴史社会学』鈴木茂・受田宏之・宮地隆廣訳、東京外国語大学出版会。
- 小池洋一 2023.「ブラジル・ルーラ新政権の開発モデル」『アジア・アフリカ研究』 63(2)。
- 子安昭子 2013.「外交におけるグローバル・プレーヤーへの道」近田亮平編『躍動するブラジル—新しい変容と挑戦』日本貿易振興機構アジア経済研究所。
- 近田亮平 2023.「転換期となった『躍動するブラジル』から10年—変化と方向性を中心に」『ラテンアメリカ・レポート』 40(1)。
- 浜口伸明 2020.「ブラジル経済社会の不安定性」『比較経済研究』 57(1)。
- 深沢正雪 2024.「日本・ブラジル新時代のカギはエネルギー保障＝大陸横断ルート建設に日本勢も参加を」ブラジル日報、1月24日。
- フランク, A.G. 1976.『世界資本主義と低開発—収奪の《中枢-衛星》構造』大崎正治訳、柘植書房。
- Carrança, Thais 2023. “A indústria virou pó’: como agro e mineração já superaram manufatura no Brasil.” *BBC News Brasil*, April 12.
- Fishlow, Albert 2011. *Starting over: Brazil Since 1985*. Washington, D.C.: Brookings Institution Press (O Novo Brasil, São Paulo: Saint Paul Editora).
- Roett, Riordan 2010. *The New Brazil*. Washington, D.C.: Brookings Institution Press.
- Weeks, Greg 2023. “Lula and the Revival of UNASUR and CELAC.” *Global Americans*, January 17.